# 国語部門

**総評**

本年度は、「読み手に伝えるため」に重要な、文章構成能力が学年に合っているかという点に特に着目し、選考の基準としました。「自分の伝えたいことをキーワード化する」→「はじめ・なか・まとめの3段階構成にそってまとめる」→「『なか』では、理由、根拠、具体例に気をつけてまとめる」という観点です。

小学校中学年については、「具体例を分かりやすく示したうえで、感じたことを表現する」という文章構成能力が学年に追いついていないため、描写力は素晴らしいにもかかわらず、惜しくも受賞を逃した作品がいくつかありました。のびのびとした感性をそのままに、読み手に伝えるための表現力・文章力を磨くことで、より素晴らしい作品になる可能性を感じました。

## 賞 文部科学大臣奨励賞

### 『紅玉』を読んで

愛知県　蒲郡市立塩津小学校　5年
**松井　碩希**

ぼくは表紙の真っ青な空と白い山なみ、りんごの絵にひかれて、この本を手にした。

ぼくとぼくの家族は、りんごが好きだ。シャキシャキとした歯ごたえ、みつがいっぱい入ったあまいのが大好きだ。（中略）

本は、一気に読めた。でも、感想が書けなくなってしまった。おいしいりんごの話ではなかった。（中略）畑をおそった朝せんや中国の人をせめられないとも思う。遠い国へ連れて来られ、仕事をさせられ、食べる物もなかったら、ぼくだって、おいしそうなりんごを目にしたら食べてしまうと思うからだ。（中略）この中国人の大きな男の人は、きっと、中国で畑仕事をしていたんだと思った。だから、「いい土だな。」と言って、お父さんたちが大切に育ててきたことがわかったのだと思った。抜粋―

戦争を扱った本については同じ結論を繰り返してしまう感想文が多い中、碩希さんの作品は読解力・文章力ともに際立っています。現実世界と作品世界をオーバーラップさせながら、場面ごとの感想がきちんと表現されており、主人公の気持ちと当時の中国や朝鮮の人々の立場や感情を、自分なりに理解しようとしている様子が伝わってきます。碩希さん独自の着眼点と豊かな表現力によって、読み手の目の前に色彩や情景を広げてくれる作品です。

## 賞 子どもの文化・教育研究所理事長賞

### 『ロボット・カミイ』を読んで

群馬県　ぐんま国際アカデミー初等部　2年
**八木　祥太郎**

カミイがしんでしまった時は、ぼくは、今どは本当にないてしまったよ。とてもかなしかったけれど、ようちえんのみんなのおかげで生きかえることができたから、とてもうれしくなって、またないちゃったよ。ぼくはきみになんかいもなかされちゃうね。

カミイが生きかえってからは、なみだのもとがなくなったはずのカミイがうれしなみだをながしたり、紙できていたカミイがこうてのロボットになったりして、ふ思ぎなことがたくさんおこったね。カミイがやさしい心をもつことができたから、かみさまが本当に「せかい一よいロボット」にしてくれたのかもしれないね。―抜粋―

「ロボット・カミイ」が体験する出来事を自分に置き換え、感じたことを分かりやすく、丁寧にきっちりと書きあげています。「たけし」とようこ」がカミイにお別れを言えなかった気持ちを、自分と父との関係に照らし合わせ、「のどの奥がきゅっとつまって『さようなら』が言えなくなる」と自分の言葉で表現しています。そして、最後にさようならが言えたのは、さよならしてもずっと友だちでいられるからだということが分かったからだと考えました。これは、何度も繰り返し作品を読み込み、作品に同化して読めていることのあらわれでしょう。

## 賞 社団法人日本児童文芸家協会会長賞

### とらえ方は人さまざま

北海道　函館市立中島小学校　5年
**三浦　舞子**

私は表紙を見るなり、「君たちはどう生きるか」という題名に面食らった。どう生きるかと言われても困ってしまう。まして、作家の「吉野源三郎」という名前に、古めかしさを覚えた。果して面白いのだろうか、最後まで飽きずに読めるのだろうかと不安に思いつつ、私は読み始めた。この頃、私は父の転勤のため神戸から函館へ転校をしたばかりで、新しい環境に少し戸惑っていた。（中略）

私が転校して来た時から仲良くしてくれているSさんは、私の大親友だ。毎朝、校門で私のことを待ってくれている。四年生の冬のある日、この日だけは違った。Sさんの姿が見当たらないのだ。（中略）その時だった。校長先生の後ろからSさんが出てきて、私に挨拶もせず、校舎の方へ駆け出して行った。私は、その後ろ姿を急いで追いかけた。Sさんは校長室へ逃げ込むなり、ワンワンと泣き出してしまった。それは壊れたスピーカーのように、校舎中に響き渡った。―抜粋―

状況の描写が上手な作品です。

朝の校門での出来事から、舞子さんとSさんとのすれ違いの原因となった前日の昼休みへさかのぼり、その後、お互いに理解し合うまでの流れを、互いの気持ちを機軸にして書き表しています。読み進めていくにつれ、どんどん話の中に引き込まれるような感覚を覚えます。

また、語彙が豊富なので、感じたことを分かりやすく表現できています。コベル君が様々な経験を通して大人に近づいていく様子と、人間は一人ひとり感じ方が違うのだと気づきはじめた舞子さんが重なる、小学5年生らしい作品でした。

## 賞 中央出版株式会社社長賞

### 平和な世界へ―私にできること―

山梨県　山梨英和中学校　3年
**深澤　伽音**

戦争反対を声に出していきたい。誰も「兵士の心」を持たないようにしたい。そのために私たちができることは、実は身近なことではないのか。それは、互いを知ること。相手のことを知っていれば相手の痛みを考え、傷つけることはしない。チャーリーが馬を愛したように。身構えて互いを知ろうとしないことが、戦争のはじまりなのだと思う。互いに理解し合うことが、平和への第一歩なのだ。私は、多くの人々を知り、それらの人々にあゆみようとする心を持っていたい。そして、真実を知る心で、正しい判断ができるようにしたい。そのために、多くの本や新聞等を読み、自分を成長させたい。―抜粋―

「兵士の心」とはどんな心かと考えながら読み進め、また、「兵士の心」を持たないためには、どうすべきかについて、率直に述べられている作品です。

自らのカナダ留学を通して学んだ「相手を理解しようという気持ちが大切」という、伽音さん独自の着眼点で表現できているところが評価できます。

## 賞 優秀賞

### てんてん

兵庫県　愛徳学園小学校　1年
**秋元　理沙**

### おばあちゃんがいなくなって

愛知県　刈谷市立小垣江小学校　5年
**柘植　俊広**